2024 年度上野千鶴子基金助成金最終報告書（HP 掲載用）

1. 助成対象事業	1「SDGs の諸課題解決に向けた活動」
2. 事業の区分	1　活動
3. 氏名/団体名	こぎつねの森の家
4. 事業名	能登沖地震　被災地女性支援活動「女性のお茶会」
5. 助成額	
6. 事業実施期間	9 月 22 日　23 日
7. リンク	https://kogitsune.club/

8. 事業の目的

能登沖地震　被災地の女性たちの支援

9. 実施内容

震災の被害が大きかった珠洲市「正福寺」にて、女性のための「お茶会」を開催予定だったが
移動日の 9 月 21 日からの歴史的水害によって緊急支援活動に変更。

能登町や珠洲市など県内全体で 1,800 棟あまりが被害に見舞われた。珠洲市では市内 8 カ所の河川が氾濫、土砂崩れにより 4 地区が孤立、約 1700 戸が断水。水害による土砂崩れ６７カ所。震災による通行止め１３か所に加え水害でさらに４８カ所増える。珠洲と輪島の停電は６９１０戸。死者１６名。重傷者８８名。軽傷者２５０名。震災の被害が最も大きかった珠洲と輪島地域が、集中豪雨のエリアと重なった。そのまま戻るわけにはいかなかった。

10. 事業の成果と自己評価

「女性のお茶会」用に準備していた食材・支援物資などは緊急避難所に届ける。川の氾濫で孤立した集落を訪問。安否確認と共に必要な物資を届けた。すでに二日も何も食べていない被災者たちは、豪華なお弁当に目を丸くした。翌日は二チームに分かれた。緊急支援チームは輪島へ向かい、困難を抱えたご家族などの個別訪問と安否確認。イベントチームは、珠洲市内の仮設住宅の集会所で、お茶会・演芸などのイベントを開催。参加者は上野基金で用意されたお茶会用の手土産を大事そうに抱え「震災後一番楽しい時間だった」と語った。私たちは限られた条件の中、持てる力を出し切った。30 年に及ぶ被災地支援の経験があっても、線状降水帯の中、道路も未整備で川の増水で家が流されている状況での移動は恐怖だった。現地にたどり着けたのはプロのドライバーのおかげだった。また、全員無事に自宅に戻れたのは過去の災害支援経験の蓄積があったからだといえる。水害後も支援は続けている。

11. 成果物

報告書　１．こぎつねの森の家、２０２４活動報告書　データと製本版
　　２．上野千鶴子基金　「お茶会」活動報告書　データーとプリントアウトしたもの
写真データ　被災地の当日の活動写真　及び、被災状況が分かる写真をまとめました。190 枚(PDF)
　　・イベントの開催にむけた準備写真から被災地支援の活動まで１－５６

・資料編　５７―69
・2024 年 2 月の被災地の状況
　内灘７１―７８/七尾７９―８７/穴水８８―１００/珠洲市１０１－１３６/
　輪島市１３７―１７４
・外国籍住民関連　１７６―１８１/活動写真　１８２―１８９　以上